

空母母港化 41 周年、原子力空母配備 6 周年抗議！原子力空母の母港撤回を求める 9・25 神奈川集会



アピール

米海軍が横須賀基地に原子力空母ジョージ・ワシントンに配備して 6 年が経過しました。そのジョージ・ワシントンは、核燃料交換のため米本土へ帰り、来年度中には、ロナルド・レーガンに交代すると発表されています。更に随伴のイージス艦の増強が想定されます。政府も横須賀市も、同型(ニミッツ型)艦の交代に過ぎないとの姿勢ですが、私たちはこれを容認するわけには行きません。

2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災による東京電力福島第一原発の過酷事故は、空母原子炉の危険性をより強く認識させる事態となりましたが、政府も米軍も依然として情報を隠蔽し、原子炉事故への対策は放棄しています。原子力依存の政策の見直しが求められ、国内の原発全てが停止している今日でも、米艦船の原子炉は何の制約も受けずに出入港を繰り返しています。米艦船の特別扱いは無責任な「安全神話」そのものです。

米国外で唯一の「空母の母港」は 41 年間も続いています。「母港の年限」は 3~4 年程度と偽り、核兵器の持込みを「核密約」で誤魔化してきた日・米両政府は、その責任を認め、「母港化」の撤回を決断すべきです。そもそも、不戦の憲法 9 条のもとで、前方展開戦力の中心である空母が居座り続けることは、国民と憲法への背信行為です。

安倍自・公政権は、あからさまな米軍優遇の一方で、集団的自衛権行使や自衛隊の増強を企図し、「戦争をできる国」へと迷走を続けています。このままでは横須賀は「日米一体の軍都」に逆戻りし、アジア諸国への脅威の街となりかねません。

憲法理念を無視する安倍政権の政策は、住民の生活と命を軽視する人権侵害そのもので、民主主義の否定です。ここ横須賀と切り離せない関係の厚木基地には、この夏、米海兵隊の欠陥輸送機オスプレイが幾度も飛来し、その訓練拠点化が危惧されます。周辺地域の危険性と騒音軽減を謳った日・米合意の飛行制限はすでに瓦解し、深刻な爆音被害の実態を断罪した第 4 次爆音訴訟での司法判断をも無視する暴挙です。

沖縄では、新基地建設反対の圧倒的な県民世論を顧みることなく、名護市・辺野古沖合の埋め立て工事にむけた準備作業が始まりました。公水面を根拠なく立ち入り禁止にし、抗議活動を弾圧、排除するなかでの「理不尽な蛮行」です。沖縄の人々の無念の思いとそれでも屈しない闘う意思を共有する必要があります。

本集会に結集した私たちは、以下の点を確認しアピールとします。

新たな空母の配備・基地機能の強化に反対し、原子力空母の母港撤回と脱原発社会の実現を一体的にすすめよう。

辺野古新基地建設など沖縄への基地負担の押し付けをやめさせ、欠陥機オスプレイを撤去させよう。

集団的自衛権の行使容認反対、「特定秘密保護法」廃止、安倍政権の戦争推進政策を許さず、憲法改悪を阻止しよう。

2014 年 9 月 25 日

集会参加者一同